

氏名	渡邊 典行
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第5578号
学位授与の日付	平成29年6月30日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学 専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Neurological Recovery after Posterior Spinal Surgery in Patients with Metastatic Epidural Spinal Cord Compression (転移性脊椎腫瘍術後の歩行能回復に関する検討)
論文審査委員	教授 伊達 勲 教授 木股敬裕 教授 岩崎達雄

学位論文内容の要旨

転移性脊椎腫瘍による硬膜外からの脊髄圧迫 (MESCC) は担癌患者において一般的な合併症であるが、外科的介入の適切な時期は未だに議論の余地のあるところである。今回我々は MESCC に対して手術加療を行い、術後の歩行能に影響を与える予後因子について retrospective に比較検討した。

当科で手術を施行した112例を対象とした。術後に歩行可能であった群は88例で歩行不可能であった群は24例であった。

American spinal injury association Impairment Scale (AIS)、徳橋スコア、術中出血量や手術時間について検討した。

術前にAISがgrade A, B であった10例中、術後に歩行能を獲得したのは2例 (20%)であった。一方、術前にAISがgrade C, D, Eであった102例中術後に歩行能を獲得したのは86例 (84%)であり、有意差を認めた。徳橋スコア、術中出血量や手術時間は群間で有意差を認めなかった。

術後歩行能獲得の観点からはAIS grade Cまでの状態で手術を施行することが望ましいことが判明した。

論文審査結果の要旨

転移性脊椎腫瘍による硬膜外からの脊髄圧迫によって歩行障害が生じることは知られているが、手術加療がどのように術後の歩行能に影響を与えるかについては十分解明されていない。本研究では、術後の歩行能に影響を与える予後因子について、後方視的に検討を行った。American Spinal Injury Association (ASIA) Impairment Scale, Tokuhashi Score, 手術時間、出血量などの因子のうち、術前のASIA Impairment Scaleが grade A, B の症例では歩行の改善程度が有意に不良であり、grade C, D, E の間に手術を行うべきと考えられた。

予備審査では、多変量解析が行えればさらに統計学的分析として有用であったと思われること、治療として手術のみを分析しているが、放射線治療や化学療法の治療効果も検討がのぞましい、などの意見があり、今後の研究課題と思われた。

本研究において、転移性脊椎腫瘍患者の術後の歩行の改善は、術前のASIA Impairment Scaleが grade C より良い状態かどうかによることが初めて示されており、今後の本疾患の治療方針に大いに寄与する価値ある研究といえる。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。